

2025 年度 FIT 入試第 2 次選考概要 (A 方式) <参考>

2024 年 9 月 21 日 (土) に実施された慶應義塾大学法学部 FIT 入試 (A 方式) の第 2 次選考の概要は、次の通りです。

1. 模擬講義の概要

- 講義のテーマ：

ジェリマンダーから考える民主主義の危うさ

- 講義の概要：

1. アメリカの選挙制度とジェリマンダー

- 1-1 アメリカの議会選挙における区割り

- 1-2 選挙区の区割りの意義とジェリマンダー

2. ジェリマンダーの解消の難しさ

- 2-1 ジェリマンダーの認定の困難

- 2-2 指標・基準の定まらないジェリマンダー

3. ジェリマンダーと民主主義

- 3-1 ジェリマンダーの防止策とその限界

- 3-2 ジェリマンダーにみる民主主義の危うさ

おわりに：「ちゃんとしていない」人間による民主主義は可能か

*大学 1 年生が受講して理解できるレベルの講義 (50 分) を行う。

2. 論述試験の概要

- 論述の設問内容：

「アメリカにおけるジェリマンダーの防止や認定の難しさは、他の社会的課題の解決の難しさに通じると考えられる。実際に同様の事例として、他にどのようなものがあるだろうか。具体例を挙げてジェリマンダーの問題との共通点を示しながら説明しなさい。」

- 解答の形式：A3 原稿用紙形式・2240字以内。

- 試験時間：45 分

3. 口頭試問の概要

教員から口頭で以下の問題を与え、受験生に自分の考えを述べること、また、教員からの質問に応答することを求めました。

- テーマ (法律学科)：

「米国、中国、ブラジルといった国々では、裁判所の手続にAIを導入しています。生成AIはすでに日本の司法試験でも一部科目で「合格水準」を取ることが可能となっています。一般にAIには多くのメリットがある一方で、さまざまなリスクがあることも知られていますが、司法や裁判制度にAIを導入することについてあなたは賛成ですか反対ですか。」

- テーマ（政治学科）：

「近年、A I の能力が著しく向上するなか、政治家や政党がA I を政治に利用する動きが見られます。A I は、人間には不可能な膨大な情報量を収集・分析することができるため、その分析結果を政治に利用することで、政策の「最適化」を図ることができる可能性がある一方、その判断基準や利益衡量が不透明化するおそれもあります。将来、A I が政治を補完したり、代替したりすることができるのか、あなたの考えを話してください。」

- 口頭試問時間：約 15 分

- その他：口頭試問の開始前に 2 分で自己アピールを兼ねた自己紹介を求めました。